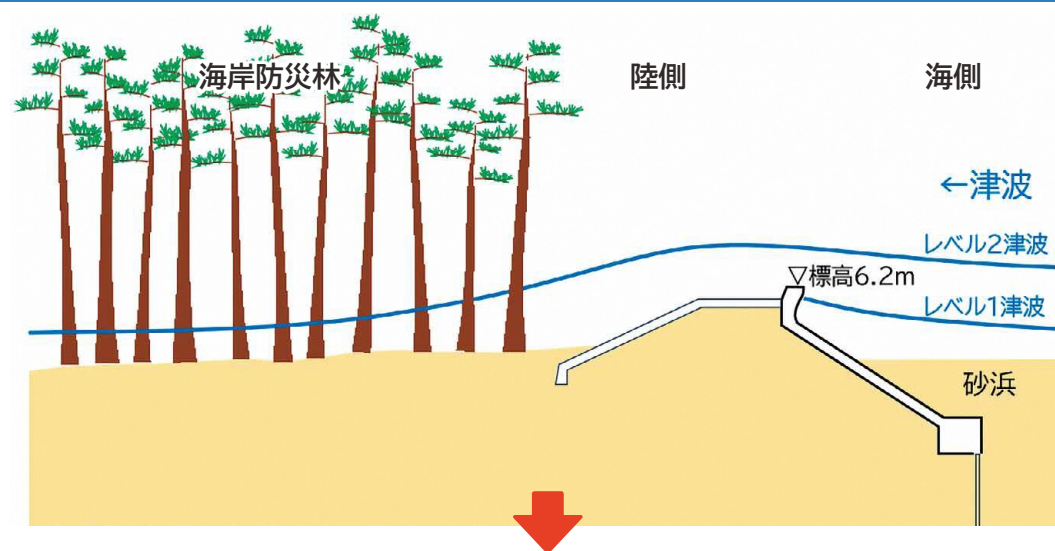


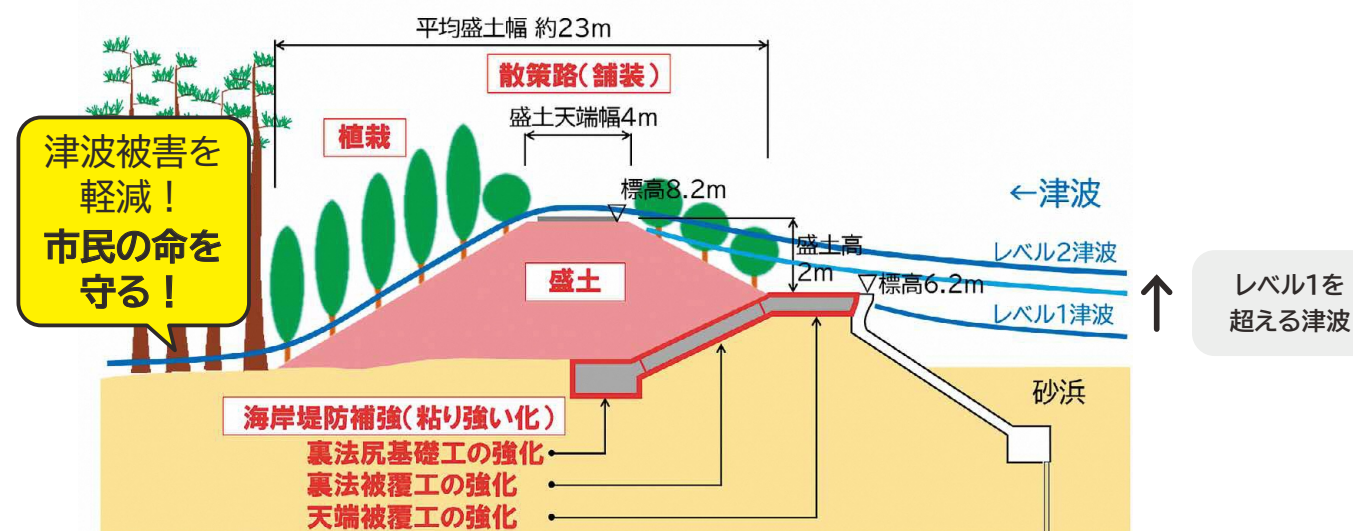
従前の海岸堤防



レベル2津波
概ね1000年に一度の発生が想定される最大クラスの津波

レベル1津波
概ね100年に一度発生する発生頻度が比較的高い津波

改良後の海岸堤防【潮風グリーンウォーク整備事業】



【事業概要】焼津市潮風グリーンウォークは、想定される最大クラスの津波（レベル2津波）に対して、被害の軽減を図るためのハード施設整備事業です。

【整備内容】既存のコンクリート海岸堤防は、海岸の管理区分により市と国・県が連携して、『海岸堤防補強（天端被覆工、裏法被覆工、裏法尻基礎工の強化）』を実施しました。

コンクリート堤防の背後には、市が新たに『盛土』と『植栽及び散策路（舗装）』を整備しました。

【整備効果】万が一、レベル1を超える津波が発生し、コンクリートの海岸堤防を乗り越えた場合でも、『盛土』が津波を防護、又は『盛土』と『植栽』が一体となって津波を減衰させ、さらに『補強された海岸堤防』は粘り強く施設の効果を発揮し、潮風グリーンウォークの施設全体で防災・減災を目指す構造となっています。

津波の到達時間を遅らせ市民の皆様の避難時間を確保し、浸水面積を減少させることによって市民の命を守ります。

【憩いの場】盛土の散策路には、足元灯や距離標が付いたスツールを整備しました。富士山や駿河湾を望み潮風を感じながらウォーキングを楽しめるなど、市民の憩いの場として活用されます。

年号	潮風グリーンウォークの主な経緯
平成26年3月	焼津市が『焼津市津波防災地域づくり推進計画』を全国に先駆けて策定
平成28年度	国土交通省が直轄工事区間（約4.5km）において被災地以外の国土交通省直轄海岸では全国に先駆けて海岸堤防補強（粘り強い化）に着手
平成29年度	焼津市が栃山川～大井川港（約5.1km）の盛土整備に着手 ※緊急自然災害防止対策事業債を令和元年から活用
令和3年度	焼津市が栃山川～大井川港（約4.8km）の植栽及び散策路整備に着手 ※防災・安全交付金（都市局）を活用
令和4年度	焼津市大井川港管理事務所が大井川港海岸（約0.55km）において海岸堤防補強（粘り強い化）に着手 ※防災・安全交付金（港湾局）を活用
令和5年度	静岡県が二級河川区域吉永放水路（約0.04km）において堤防補強に着手
令和7年度	栃山川～大井川港にわたる約5.1kmの『潮風グリーンウォーク』が事業着手から10年目に完成

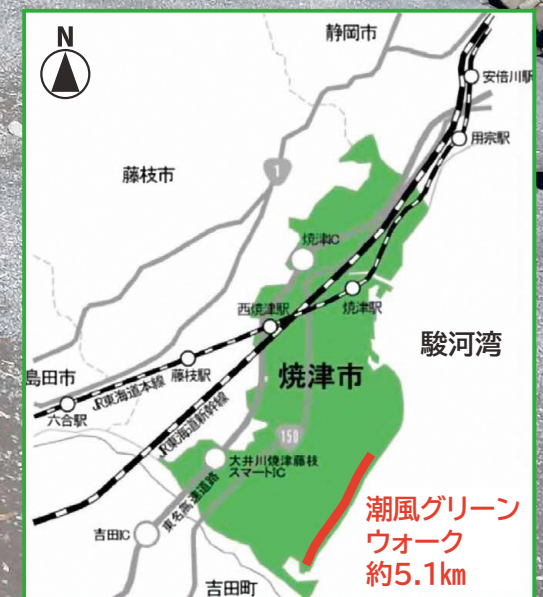
海街の未来を守る 緑の防潮堤

焼津市 潮風グリーンウォーク

令和8年(2026)3月12日完成式典



焼津市



焼津市津波シミュレーション

焼津市では、東日本大震災での教訓を踏まえ、想定される被害を可能な限り軽減することを目指して、ハード・ソフト両面の対策を組み合わせた地震津波対策に取り組んできました。

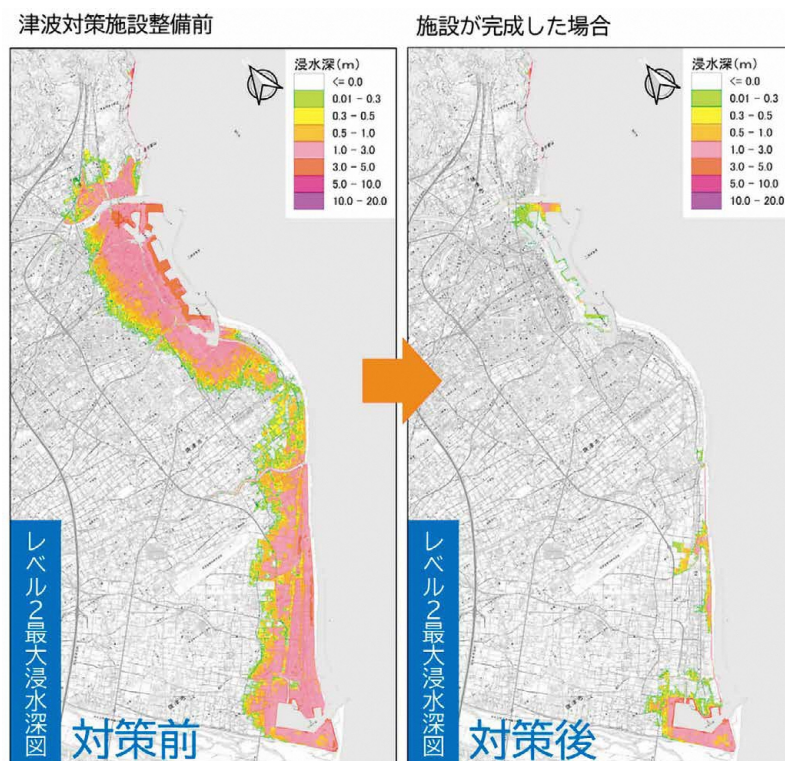
最大クラスの津波（レベル2津波）は、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらします。

レベル2津波に対する減災を目的とした潮風グリーンウォーク整備事業などの効果を検証するために、令和3年度に焼津市津波シミュレーションを実施しております。

シミュレーションの結果、本市で既に整備済みの施設に加え、今回完成した潮風グリーンウォークや現在整備中または今後整備予定、検討中の施設が完成し、施設の効果が最大限発揮された場合、レベル2津波による市内の浸水面積が最大85%減少されるという結果になりました。（令和3年度 焼津市津波シミュレーション）

※本シミュレーションは、津波対策施設の高さが津波襲来時においても維持され、その効果が最大限発揮された場合として焼津市が独自に行ったものです。

市内における津波対策施設の整備後 津波浸水面積が最大85%減少



焼津海岸堤防の強化 総事業費 約76億円 (国費等約71億円・市費約5億円)

潮風グリーンウォーク整備事業【完成】

事業延長 約5.1km（栃山川～大井川港）
総事業費 約49億円（国費等約44億円・市費約5億円）
事業期間 10年間（平成28年度～令和7年度）

栃山川以北の海岸堤防補強

事業延長 約2.8km
工事実績額 約27億円（国費）
進捗率 約90%（令和7年度末時点）
（施工延長ベース）



着工前の海岸堤防



直轄工事の「裏法尻基礎工」のようす



ウォーキングのようす



夜の散策路



静岡県

焼津市



植樹祭「みどりの祭典」のようす



県河川区域の「裏法被覆工」のようす



海岸堤防背後の「盛土」のようす



散策路の「舗装」のようす

苗木1万7千本を育成

盛土に植栽された樹木のうち約1万7千本は、沿岸部に自生した樹木から種子を採取し育てました。



盛土材料28万㎡

工事で使用した約28万㎡の全ての盛土材料は、県内のトンネル工事等で発生した土砂を有効活用しました。

ごあいさつ

海街の焼津市は、水産業とともに発展してきたまちであり、富士山や駿河湾を一望できる海岸線は、景観に優れ心に安らぎをもたらす原風景であります。また、海岸線は約15.5キロメートルを有しており、地震・津波災害に対し、まず市民の「命を守る」こと、次に「財産を守る」こと、そして産業の継続性を維持するための「生産活動を守る」ことが必要不可欠であります。

平成28年度より事業着手した「潮風グリーンウォーク整備事業」は、国土交通省が東日本大震災における被災地以外の直轄海岸では全国で初となる「粘り強い構造」の海岸堤防改良を実施しました。県では二級河川区域である吉永放水路の津波対策、市では海岸堤防の陸側に「堤防盛土」と「植栽及び散策路」を整備し、このたび、二級河川 栃山川から大井川港までの約5.1キロメートルが完成しました。「潮風グリーンウォーク」の整備により、津波による災害の防止・軽減の効果が高くなり、将来にわたって安心して暮らすことのできるまちづくりが大きく前進しました。

今後は、更なる防災意識の向上を図り、市民の主体的な行動による「自助」「共助」の取組を推進し、ハード・ソフト両面の施策を組み合わせた「多重防御」の発想により、安心で安全なまちづくりをより一層進めていきます。

本事業にご協力、ご尽力いただきました関係者の皆様方の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

焼津市長 中野 弘道

